

# ビデオ 通信

2025 年  
3月10日(月)  
No.4843

月・木曜日発行  
月額：¥11,000(税込：¥11,880)  
発行：飯澤剛  
編集：齋藤浩一

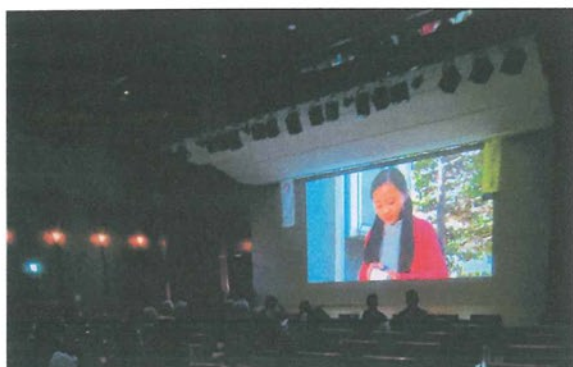
**ユニ通信社**

〒114-0024  
東京都北区西ヶ原 3-57-17-202  
TEL：03-5422-7515  
FAX：03-5422-7516  
E-mail：vt@uni-press.net

映学社

## 「フクロウ人形の秘密」を「プリズンアート展」で上映

トークショーでは再犯防止に向けた取り組みなどを議論



(株)映学社が制作した再発防止啓発ドラマ「フクロウ人形の秘密」が、2024年12月に和歌山県立図書館で開催された「芸術での交流で無知と偏見をなくす上映会&トークショー」で上映された。このイベントは、Prison Arts Connections (PAC) が毎年開催している「プリズンアート展」の一環として行われたもので、「社会を明るくする運動」作文コンテストで法務大臣賞を受賞した作品をベースとして制作された「フクロウ人形の秘密」を上映するとともに、上映終了後には、同社 代表取締役社長で同作品の監督を務めた高木裕己氏がゲストとして登壇し、和歌山 BBS 連盟会長の高垣晴夫氏、プリズンアート展代表の風間勇助氏と対談を行い、制作の経緯・意義や作品に込めた思い、再犯防止に向けた取り組み、人は誰でも間違いを犯しうることを想像し、その更生や回復に私たちも一緒に向き合うことなどについて語り合った。当日は、最大 300 席収容可能なメディア・アート・ホールに、関西を中心に教育関係者など多くの人が集まり、来場者からも積極的な意見・質問が出るなど盛況だった。なお、PAC では第 3 回「プリズンアート展」を今年 5 月頃に東京で実施する予定。

### テーマは“刑務所の中と外とのコミュニケーション”

今回のイベントに参加した経緯について、高木氏は〈法務省の外郭団体である更生保護法人日本更生保護協会が発行している月刊誌「更生保護」から依頼があり、「フクロウ人形の秘密」の制作について寄稿しました。同誌は全国の保護司をはじめとする更生保護関係者、関係機関、大学等に対して約 6 万冊が配布されており、全国から「フクロウ人形の秘密」の上映会や講演依頼があった中で、特に熱心だった和歌山 BBS 連盟の高垣会長からの依頼に応えたものです〉と説明する。



～“なぜ犯罪を?”考える社会に～

「プリズンアート展」は、任意団体の PAC が主催で毎年開催しているもので、刑務所で過ごす人たち、刑務所と関わる人たちの芸術表現を集め、展示することで、塀の内と外をつなぐ対話を生み出す活動。これまでに 2 回の展示会を開催し、全国約 30 ヶ所の刑務所から送られた 250 以上の作品を延べ 1000 人以上が鑑賞している。〈テーマは“刑務所の中と外とのコミュニケーション”。再犯防止の一環とともに、「開かれた刑務所」を目指して様々なイベントが展開されていく動きがある中で、今回の会場となった県立図書館の館長が非常に好意的で、1 週間にわたって「プリズンアート展」が開催されました〉(高木氏)

### 「再教育チャレンジ」の必要性などを議論



(左から)和歌山 BBS 連盟会長の高垣晴夫氏、映学社の高木裕己氏、PAC の風間勇助氏

「芸術での交流で無知と偏見をなくす上映会&トークショー」は、「プリズンアート展」で初めて開催されたもので、「フクロウ人形の秘密」が上映された後、高木氏、高垣氏および「プリズンアート展」代表の風間勇助氏の 3 人が登壇、約 90 分にわたって熱いトークショーが展開され、高木氏は同作品を制作する経緯や狙いをテーマに話した。〈「再犯防止」といっても、子どもたちにはなかなか伝わらない。再犯防止の前に「再教育チャレンジ」が必要です。誰でも日常生活の中でなにか失敗するようなことはある。特に小学生などは何か失敗するとどんどん落ち込んでとじこもりがちになり、登校拒否の原因の 1 つにもなっています。この「再教育チャレンジ」をしっかりと実施していくためにも、知識重視の正解主義である学校の授業の中に、1 つのテーマに対して子どもたちが反対派と賛成派に分かれて討論し合う「ディベート教育」を採り入れる必要がある。欧米などでは盛んに行われていますが、日本の教育現場ではまだ採り入れているところは少ない。特に、この作品で取り上げている「一度犯罪を起こした受刑者が立ち上がろうとしている」という問題に対しても、子どもたちが 1 人で判断するのではなく、クラスのみんなで考えていく。そして、作品や作文にある「自分たちで国や地域を良くしたりはできないけど、自分たちのクラスの中で、できることだけをやっていこう」といったことを広く、強く訴えかけていかねばならないのではないかと話しました〉(高木氏/写真→)



当日は、児童相談所の所長や学校の先生など、こうした問題に関心を持っている人が集まり、会場からも「ディベート教育」の必要性などについての意見や質問が出るなど、熱いトークショーになったという。

### “戦争と人権”をテーマに特攻隊を取り上げる作品を制作中

映学社では現在、“戦争と人権”をテーマに、太平洋戦争における特別攻撃隊(特攻隊)を取り上げた映像作品の制作を進めている。高木氏は〈当社が制作した人権学習教育映画「涙に浮かぶ記憶～戦争を次世代へ伝えて～」は 2017 年に制作した作品ですが、現在でも注文があり、関心の高

い人が沢山いると同時に、生き証人が減少の一途を辿っていく中で、早く作らなければと考えました。「涙に浮かぶ記憶～戦争を次世代へ伝えて～」が海外で受賞した受賞式に出席した際、海外の人達から「日本の特攻隊は、中東の自爆テロとどう違うのか？」という多くの質問を受けました。「日本の特攻隊は一般の人を殺したりはしていない。一般の人も対象にして殺す自爆テロとは全く違う」と強く否定したのですが、海外でもそういう目で見られています。戦争になると周りの異常な雰囲気、動かされてしまう。子どもたちも国威発揚の映画や漫画などにも影響されて「自分もそういう人間になる」と志願してしまう。日本が戦争に突き進んでしまった歴史を紐解くとともに、貴重な証言者の戦争体験を伝えていくことが大切だと考えています」と語る。

新しい作品では、佐賀市に住む元特攻隊員で98歳の鳥谷邦武氏を中心に取材を進めていく計画だという。高木氏は「特攻隊の基地だった福岡県の筑前町立大刀洗平和記念館が今年創立15周年を迎えます。その式典の席に鳥谷さんが出席する模様も撮影しながら物語を広げていきたいと考えています」と話している。

◇映学社 <https://www.eigakusya.co.jp/>

### 児童劇『フクロウ人形の秘密』



映学社が進めている“子どもの作文の映画化”の第5弾となる作品。第68回“社会を明るくする運動”作文コンテスト 小学生の部で法務大臣賞を受賞した小学生が書いた作文をベースに、今日的な再犯防止の問題を加えて脚色した。ドラマ制作ではこれまで許可されなかった少年刑務所内での撮影も実現するなど法務省が全面協力し、「受刑者が何故、再犯してしまうのか」について“子どもの主観”で捉えたドラマとなっている。

〈主人公のユキは、母と訪れた刑務所の即売所で木彫りのフクロウ人形を見つけ、そのかわいさが忘れられず、数日後、再び1人で即売所にやってきた。フクロウ人形に見とれていると、女性刑務官(藤田朋子)が声をかけてくれた。ユキは「何で刑務所の中でこんな作品を作っているのですか？」とその女性刑務官に素直な疑問をぶつけてみた。ユキは女性刑務官の話から、罪を犯す少年少女たちには、家庭環境が大きく関わっていることを知る。例えばフクロウ人形を作っている中田ヒロシの場合は……。ユキの祖父、信治は保護司。罪を犯したものを更生させる手伝いをしている。信治は今まで様々な経験をしてきた。力を尽くしても裏切られ、それでも見捨てないで見守り続けたこと。社会復帰後の成長に思わずうれし涙を流したこと。ユキは信治の少年少女を見守る眼差しに、強く深い愛情を感じるのだった。ユキはフクロウ人形との出会いをきっかけに、罪を犯す少年少女が元々凶暴な性格ではないことを知った。厳しい家庭環境、抜け出せない貧困のループ。ユキは「大きな社会問題だけど、小学生の自分たちにも何かできることがあるはず」と思い始める〉

海外での受賞歴は、インド・フレンチ国際映画祭(インド)最優秀児童映画賞、コルカタ国際文化映画祭(同) ゴールデンフォックス賞、アコレード映画祭(アメリカ)2部門で優秀賞、KIDS国際ファミリー映画祭(アメリカ)最優秀短編映画賞、ヘルシンキ国際教育映画祭(フィンランド)オフィシャルセレクション、シンガポール国際映画祭(シンガポール)教育映画部門特別功労賞、ローマプリズマ国際映画祭(イタリア)オフィシャルセレクション、フォルモサ映画祭(台湾)入選など。  
制作・著作:映学社/後援:法務省/企画協力:更生保護法人両全会/企画・制作統括:高木裕己/脚本・監督:高木裕己/撮影:中井正義/照明:長谷川明夫/録音:西島房宏/編集:高木裕己/助監督:齋藤隆也/制作担当:川下和裕/脚本取材協力:小畑輝海(更生保護法人両全会 理事長)、石附弘(日本市民安全学会 会長)、大川哲次(弁護士、篤志面接委員)、石川正興(早稲田大学 法学部 名誉教授)、木村清(渋谷区更生保護協力事業主会 会長)/撮影協力:川越少年刑務所、府中刑務所、松本少年刑務所、東京都板橋区立中台小学校/詩の引用元:察美千子編『世界はもっと美くなる 奈良少年刑務所詩集』(ロクリン社)